

「スマートモビリティチャレンジ」 7年間の総括

2026年3月

製造産業局自動車課モビリティDX室

2019年度～2025年度「地域新MaaS創出推進事業」

- 自動車の「CASE」対応に伴う保有・サービスのあり方や、人口減少等の社会構造の変化に対応するため、**移動課題の解決や地域経済活性化、モビリティ関連産業の裾野拡大**につながる新たなモビリティサービスの実装に向けたMaaSの支援を実施。
- 単一モビリティの改善にとどまらず、**自動運転バスとの掛け合わせや異業種との連携等、地域の特性を踏まえた取組を創出**。多くの好事例が社会実装し、全国へのMaaSの普及につながった。

アイシン「チョイソコ」

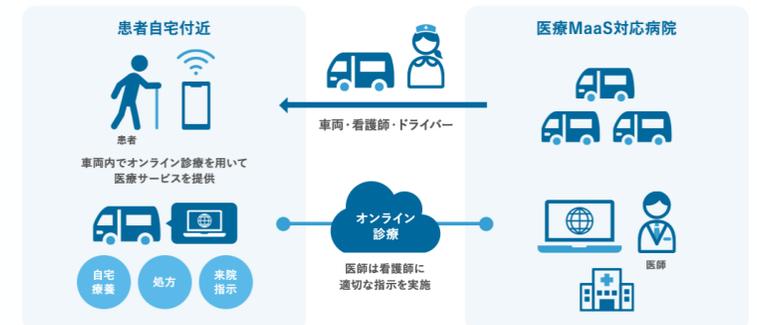
- 利用者の予約によって配車を行う、**乗合型のデマンド交通サービス**。予約状況に応じて乗降場所や経路をAI等のシステムにより計算し、効率的に目的地まで輸送し地域の交通利便性を高める。**全国96地域に導入**がされている。（26年1月時点）



出典) チョイソコ ウェブサイト

MONET「医療MaaS」

- 医療とモビリティ**を掛け合わせた新たなサービス。医療機器やモニター等を搭載した医療MaaS対応車両が患者の自宅付近に向かい、オンライン診療等を実施する。医療サービス側が移動することで、患者と医師の双方の移動負担軽減が実現。**全国27地域に導入**がされている。（26年2月時点）



出典) MONET Technologies ウェブサイト、写真はMONET社提供

地域新MaaSでの支援方針

- 7年間の支援の中でも、各年の実証結果や実装状況に応じて重視すべきポイントを都度見直した。

2019年度（13地域）

- 新たなモビリティサービスの社会実装を通じた移動課題の解決や地域活性化を目指し、**地域新MaaS事業およびスマートモビリティチャレンジ推進協議会を立ち上げ**。

2020年度（16地域）

- 初年度に浮かび上がった課題を踏まえ、「他の移動との重ね掛け」、「需要側の変容を促す仕掛け」等**5つのテーマを設定**。現状と課題の類型化を進めた。

2021年度（14地域）

- 先進的な取組を全国に展開していくため、5つのテーマを維持しつつ、データの利活用や持続性・事業性の確保等、**地域横断的な課題への対応に注力して支援**。

2022年度（11地域）

- 地域横断的な課題の評価や分析に意欲的に取り組む地域との連携を強化。**地域のアセットを、データを活用しながら最適化する「MaaSコーディネーター」の創出を目指す**。

2023年度（8地域）

- 社会実装への道筋を確立していくため**、5つに細分化していた公募テーマを「移動サービスの最適化」、「異業種との連携」、「モビリティデータ利活用」の3つに再整理し、1件あたりの成果や課題検証の強度を上げた。

2024年度（6地域）

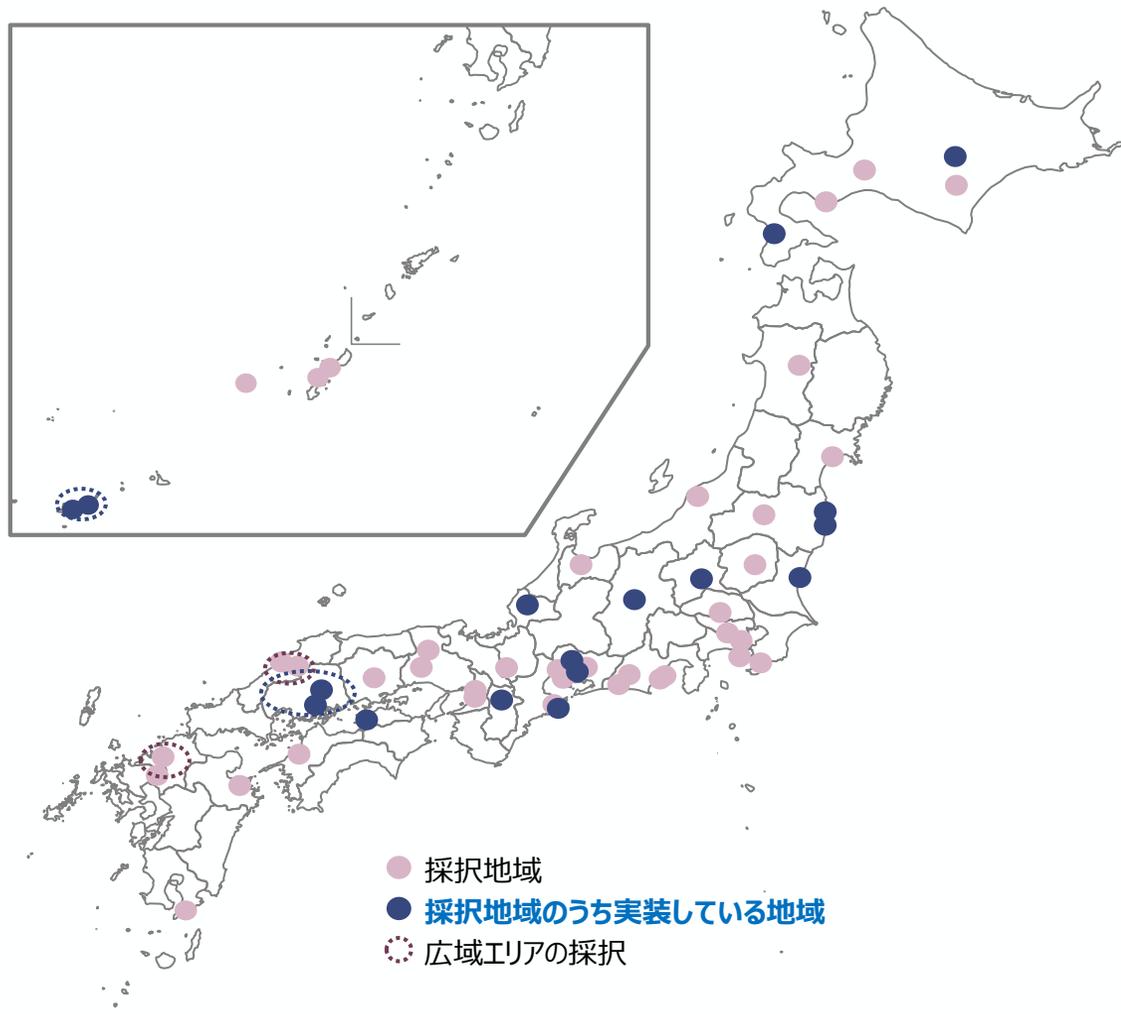
- 応募テーマを一本化するとともに、**産業競争力の強化を目的として**、将来的な自動運転の普及を見据えたビジネスモデルや、法規制等の課題によりこれまで具体化が進んでこなかったサービスを実証。

2025年度（5地域）

- 前年同様、産業競争力の強化を重視しつつ、**自動車関連事業者が参画し、既存事業強化や新規事業創出にも繋がるような取組**や、将来的な自動運転化の適用可能性を検討する取組を特に後押しする。

採択地域一覧（7年間、累計73地域）

- これまでに累計73地域を支援し、うち17地域26事例が実装につながった。



採択地域一覧

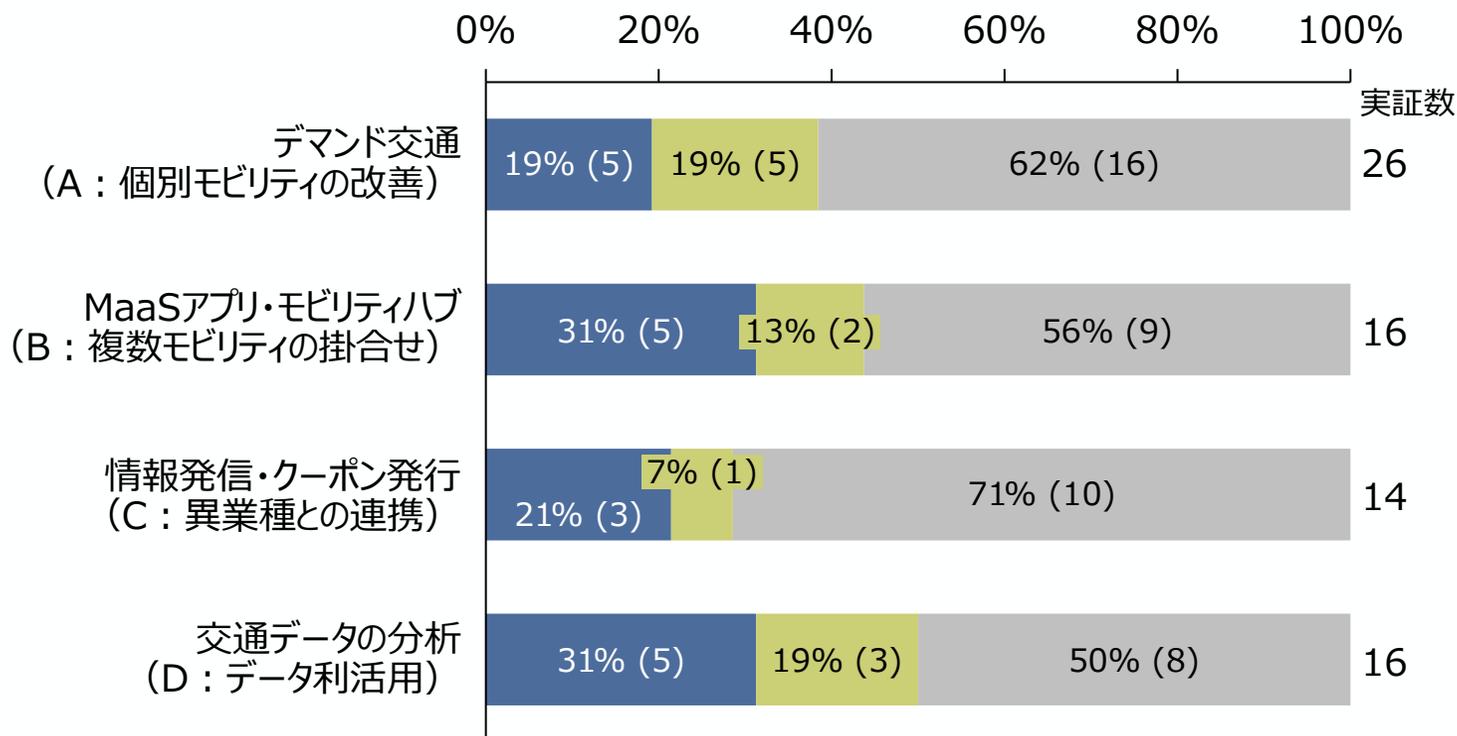
- **北海道江差町**(R4)
- 北海道室蘭市(R3)
- **北海道上士幌町**(R2)
- 北海道帯広市(R3)
- 北海道北広島市(R2)
- 秋田県仙北市(R7)
- 宮城県仙台市(R3)
- **福島県南相馬市・浪江町・双葉町**(R2)
- **福島県浪江町・南相馬市**(R1)
- 福島県浪江町(R4)
- **福島県会津若松市・茨城県日立市**(R3)
- 茨城県日立市 (R1)
- **群馬県前橋市**(R1)
- 埼玉県入間市(R4)
- 千葉県館山市・南房総市(R5)
- 東京都町田市(R2)
- 神奈川県川崎市(R6)
- 神奈川県横浜市(R7)
- 神奈川県横須賀市(R1)
- 新潟県新潟市(R5)
- 富山県富山市(R7)
- **福井県永平寺町**(R3)
- **長野県塩尻市**(R4)
- **静岡県湖西市**(R2)
- 静岡県焼津市(R6)
- 静岡県静岡市(R2)
- **静岡県浜松市(春野町)**(R2)
- **愛知県春日井市**(R3)
- **愛知県尾三地区南部**(R2)
- 愛知県豊田市(R1)
- 愛知県名古屋市(R4)
- 愛知県常滑市(R2)
- 三重県3町(多気町・大台町・度会町)(R7)
- **三重県6町(大台町・紀北町・大紀町・多気町・明和町・度会町)**(R5)
- 滋賀県大津市(R1)
- **奈良県川西町**(R5)
- 大阪府大阪市(R3)
- 大阪府堺市(R6)
- 兵庫県養父市(R2)
- 兵庫県播磨科学公園都市(R3)
- 鳥取県米子市・大山町・伯耆町(R4)
- 島根県美郷町(R3)
- 島根県大田圏域(大田市・川本町・美郷町)(R7)
- 岡山県吉備中央町(R5)
- **広島県(広島空港・庄原市)**(R2)
- **香川県三豊市**(R3)
- 愛媛県伊予市(R4)
- 福岡県福岡エリア(R6)
- 佐賀県基山町(R3)
- 大分県大分市(R1)
- 鹿児島県肝属群3町(R1)
- 沖縄県恩納村(R4)
- 沖縄県久米島町(R6)
- 沖縄県北谷町(R4)
- **沖縄県八重山諸島(石垣市・竹富町)**(R5)

※カッコ内に最新採択年度を記載している
 ※主に実施している取組をもとに色分けを実施
 青：個別モビリティの改善、紫：複数モビリティの掛合せ、黄：異業種との連携、緑：データ活用
 ※**太字・下線**は実装取組のある地域
 (実装は、2025年7月～12月のデスクトップ調査、関係者へのヒアリング、メール調査にて判断)

採択地域の継続状況

- 採択地域では多種多様なスマートモビリティのアイデアが実証され、現在も「実装」と「継続実証中」を合わせて約4割の地域で取組が継続している。

過去採択地域（R1～7年度経済産業省採択地域）の取組分類別のステータス



ステータスの定義

実装

地域新MaaS創出推進事業の採択期間終了後、同種もしくは類似の内容が無期限で運営されている

実証継続中

地域新MaaS創出推進事業の採択期間終了後、同種もしくは類似の内容の検討が継続している
または、2024年度以降に実証を実施している

中止・終了

同種もしくは類似の内容について検討が終了している

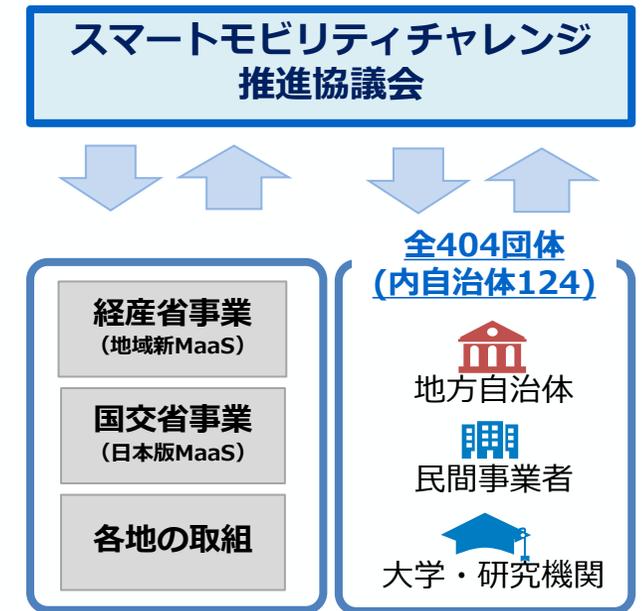
※各分類の中で、特に取組数が多かったサービスアイデアを抜粋して記載

※ステータスは、2025年7月～12月のデスクトップ調査、関係者へのヒアリング、メール調査にて判断

スマートモビリティチャレンジ推進協議会

- 地域と企業の協働による意欲的な挑戦を促し、省庁横断的にスマートモビリティの創出・普及を後押ししていくため、経産省および国交省が共同で2019年度に協議会を組成。
- 両省の事業を通じて幅広くMaaSの取組支援を行い、先進的な事例が各地で多く実装した。また、その知見が協議会活動を通じて他地域に広く展開された。

主な活動	実施時期	概要	実績
協議会HP・メルマガの運用	2019年度～	• 地域新MaaSや事務局分析の成果を公表する協議会HPの運用	会員数は 404団体 まで拡充
シンポジウムの開催	2019年度～	• 過去実績の知見や地域の事例をシンポジウムで紹介	51回 開催し、知見を拡充
個別相談の実施	2021年度～	• 会員からの相談に対して個別の打合せを実施しアドバイスを行う	会員自治体等を対象に 19回 実施
体験ツアーの開催	2023年度～	• 過去採択の先進地域にて会員向けの試乗や意見交換会を開催	6回 実施し、のべ 94名 が参加
伴走支援の実施	2024年度～	• スマモビ導入を構想する地域に事務局が伴走して検討を支援	7地域 を支援
「スマつく」作成	2023年度～	• 過去7年分の知見をまとめたガイドブックを作成し配布	累計 1,000冊 以上を配布



伴走支援の実施（2024年度～）

- 協議会の特徴的な活動として、これからスマートモビリティの導入に取り組む地域の「将来構想の策定・実証実験計画の作成」に向けた伴走支援を実施。事務局より、先行的に取り組んだ事例に関するベンチマーク調査等の情報を提供するほか、これまで協議会で蓄積した知見に基づく助言を行った。
- 伴走支援の成果を踏まえて構想の再検討を行ったことにより、支援終了後に実証実験を実施し、将来の実装を目指す事例を創出した。

2024年度 富山市

- e-Paletteを活用した富山駅北口エリアの賑わい創出という未来ビジョンがある一方で、地域課題の深掘りや構想の一部練り直し、ステークホルダー間の意識醸成等が必要な状態であった。
- 伴走支援では、地域事業者へのヒアリングやワークショップを実施し、構想をブラッシュアップした。また、伴走支援の結果を踏まえつつ構想検討を継続し、2025年度の地域新MaaSでの採択につながった。引き続き来年度以降の継続実証と実装を目指す。



2025年度 八王子市

- 市民の新たな集いの拠点として、複合機能施設が2026年秋に開業予定。開業に合わせて八王子駅南口と拠点の間を結ぶ自動運転バスの導入計画が持ち上がったが、具体の計画が定まっていなかった状態であった。
- 伴走支援では、地域へのヒアリングに加え、自動運転実証で先行する地域のベンチマーク調査やヒアリングを実施。将来構想をまとめ、来年度の実証実験につなげていく。



日本版MaaS推進・支援事業（国土交通省）

- 交通事業者や観光施設等の連携・協働により**多種多様なモビリティサービスを「一つのサービス」として利用可能とするMaaS**は、輸送資源へのアクセシビリティ向上など**地域交通の利便性を飛躍的に向上させる施策**。
- 国土交通省「日本版MaaS推進・支援事業」では令和元年度から全国のMaaSの取組を支援しており、令和7年度までに71事業を採択。
- 令和7年度からは、**「交通空白」解消等の地域交通の「リ・デザイン」全面展開を加速**する観点から、支援の重点化や伴走支援の強化など事業の運用改善を実施。

事業概要

以下の施策を一体的に実施することで、**移動環境の向上や観光促進による持続可能な地域交通を実現する**取組を支援。

① マルチモーダル×シームレスな移動体験の提供

鉄道、バス、タクシー、公共・日本版ライドシェア等の**多種多様な交通モードを「一つのサービス」として広域かつシームレスに利用可能とする**MaaSアプリ等のサービス提供。

マルチモードの参画



事業グループやモードの垣根を越えた地域の交通サービスの連携を重視

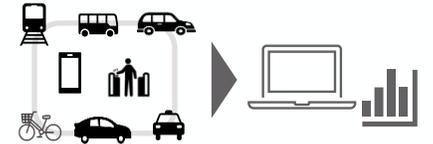
シームレスな移動体験



「快適」で「わかりやすい」交通サービス利用を実現する施策を支援

② モビリティ・データの取得と活用

MaaS等から取得可能な「モビリティ・データ」を活用した**データ分析とこれに基づく計画策定や路線再編等の施策の実施**。



モード横断的な移動実態の把握とデータ活用を支援

③ まちづくりや観光との連携

MaaSの取組を交通利便向上のみならず、まちづくりや観光施策との連携など**地域全体の課題を解決する取組として実施**。



関係者との連携によるMaaSを通じた地域課題解決を重視

7年間の成果と今後の方針

- **地域新MaaSで実証を行ったアイデアが多数実装**したほか、採択地域の横断分析により実装のクリエイティブポイントを導き出し、**今後必要と考えられるアクションを整理**した。
- 地域新MaaS・スマモビ協議会で支援してきた成果をさらに広げていくため、移動の課題に直面する地域が自ら取り組めることを目指した**「スマートモビリティの創り方～みんなのガイドブック～」を作成**。事業終了後もガイドブックを経産省HPに掲載し、必要とする地域に紹介することで、得られた知見のさらなる普及を図り、7年間の成果を最大化する。

ガイドブックの特徴

- スマートモビリティの導入に向けた取り組みは中長期の取組になることから、構想段階から実証・実装に至るまでの過程をステップごとに区切り、実際に取り組む担当者目線で解説。
- 検討事項を取組のステップごとに例示し、実践的なフレームワークを掲載。先進事例で生まれた知見の再現性を高めている。
- 事例紹介を多数掲載。地域によってスマートモビリティの導入に向けた検討状況や課題は様々であるため、地域特性に応じた取組を知ることができる。

紹介事例（一部）



福井県永平寺町「近助タクシー」



北海道江差町「江差マース」



長野県塩尻市の自動運転バス



香川県三豊市の送迎サービス

